

人事と市場

FOMC（米公開市場委員会）は市場が最も注目するイベントの一つだが、明日はそれよりも **FED** の次期議長人事の発表に注目が集まる。と言ってもジェローム・パウエル理事の昇格が決定のようだ。

パウエル理事は現議長のイエレンのようなアカデミックの経歴はないが、大手の投資ファンド、カーライル・グループの共同経営者を務めていたことがあり、市場に近い理事の一人とみなされてきた。

金融政策は現在の **FED** の政策を踏襲すると見られている。つまり穏やかな金融引き締め政策を目指す。

フェドファンドの先物レートから推計する直近の利上げの可能性は、12月の0.25%の利上げはほぼ確実で、次の利上げは来年の6月になって初めて6割以上の確率になる。

これはパウエル理事の昇格を織り込んでいるが、利上げシナリオは織り込む前とあまり変わらない。市場参加者は金融政策ではパウエルとイエレンの **FED** では変わらないと見ている。

変わるとすれば金融規制についてだ。投資ファンドの経験を持つパウエルは規制緩和に前向きと見られている。特に市場関係者は規制緩和派が多いのでそうした期待を込めての見通しだ。大統領選挙でトランプを支持したウォール街の関係者の動機の一つは金融規制の緩和だ。

既に規制緩和志向の強い金融監督担当の副議長が決まっているが、**FED** は基本的に合議制で一人では実効性に乏しい。議長が加われば歯車が動く可能性が高まる。

FED の議長と言えはグリーンSPANとかバーナンキが思い浮かぶ。もっと遊べばボルカーがいた。大物と言われた議長でその言動は市場を動かした。もちろん世界の基軸通貨ドルを管理する中央銀行なのでそのトップは誰であれ市場に影響を与えてきたが、彼らの影響力は一段と大きかった。

パウエルには大物議長という感じはない。だがグリーンSPANも就任時は大した期待もされなかった。それが就任2か月後に起きたブラックマンデー（1日でダウが20%下落した）での対応が評価され、その後も数多くの金融危機などの対応を通じて実績を上げ、大物議長としての評判を得た。

パウエルも就任直後にブラックマンデーのような洗礼を受けてもおかしくない市場環境にあるので、その手腕をすぐに見ることができるかもしれない。

ところでトランプ大統領がジョン・テイラーを指名したらサプライズだ。債券は売られ、株は売られ、ドルは上昇か。